

教育センターだより



— 受 講 風 景 —

公開講演はじまる

— 新規事業紹介 —

も く じ

教育センターの機能充実を期して	2
ようこそ ムワネキさん —海外研修員紹介—	2
さまがわり・アラカルト —新規事業紹介—	3
研修講座の紹介と受講者の声	4・5
昭和62年度秋田県教育研究発表会の御案内	6
相談室日記	7
教育センター機構図・お知らせ	8

第 39 号

昭和62年7月13日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号
☎ (0188) 32-3594

教育センターの機能充実を期して

秋田県教育センター所長 山岡 雄平



所長室の窓越しに見える花壇には、今、職員たちの植えたマリーゴールド、三色すみれ、サルビアなどが、色とりどりに可憐な花を咲かせて、受講者の方々の目をなごませている。

この教育センターの機構改革がなされて二年目。情報処理教育研修部のスタート、特殊教育センターの統合などをはじめ、新しい教育課題への対応と全所あげての機能の拡大充実を期する方策もようやく軌道にのりつつあると思っている。

本年度は特に次の二つにウエイトを置いて一層の進展をはかっているところである。

その一つは、全所的な研究体制の強化とその事業の促進。研究事業の強化は懸案であったところだが、まず、時代の進展に即応した基本的課題として「変化する社会に対応出来る人間性

豊かな児童・生徒の育成」としておさえ、具体的には、「個人差に応じた学習指導の進め方」「パーソナリティの変容を促す教育相談の在り方」「自ら学びとる力を育成するための調査研究」に関する三つのプロジェクトチームをつくって、全所的に取り組む体制をとった。

そして又、各研修部が抱える今日的課題について、それぞれの特徴をいかした共同研究方式に従い、研修講座や学校現場への還元方法を明確化して研究を進めている。

二つめは、開かれた教育センターとしての機能の拡大。講座の受講対象者以外にも聴講が出来る公開講演。教育相談等受講希望の多い講座を中心に各地区に出張して行う移動講座。各学校グループが、適宜、必要に応じてセンターを活用出来る自主研修講座の充実等を三本柱としているが、ともあれ、これを機に教育センターが、より身近で親しみやすい研修の場となることを大いに期待したのである。

「充実した二日間でした。これを土台に子供たちと焦らずに

やっけていきたい。」「暗中模索の中に一条の光を見いだした次第です。」「参考になる所多く生徒との接し方に少し自信がつかまりました。」「職員の気配りもとても感じがよかったです。」これは、先日受講された先生方のアンケートの一節だが、日常の教育実践への真摯な姿勢に裏づけられたこうした数多くの言葉に接すると、正直のところホッとすると、勇気づけられる。そして、何よりも、ここを訪れた教職員一人一人が新たな自信をいだき使命感をもって充足出来るような、文字通りの教育のセンターでありたいという思いをいよいよ強くする。

親にとって、我が子を「熱心で力のある先生」に託したいというのは、だれしもの共通の願いであろうし、そして子供たちが最も感化・影響を受けるのは「子供と一緒に伸びようとする違いはないであろう。」

本年度、新たに初任者研修制度の試行にも入ったところであるが、現職研修にかかわる重みを改めて反すうするとともに、ともかくにも、当教育センターの事業の一つ一つが、こうした親、子供、教師の期待や願いの原点と不離のものになっていくかどうか、怠りなくチェックをしながら歩みを進める一年でありたいと思っている。



六月十一日、ケニアからロビンソン・ムワネキ氏(24)が研修員として入所した。ケニアでは中学校の理科の先生である。こうした海外研修員を当教育センターが受け入れるのは、これで三度目であるが、これは、海外研修員を積極的に受け入れて国際協調に役立てようという県の方針に当教育センターが積極的に協力して実施したものである。

現在、習慣の違いや言葉の問題で戸惑いながらも、コンピュータやタイプライターに触れる等、気分転換を図り、外国生活の緊張をほぐしている。今のところ日本語の勉強が第一だが、理科教育、特に化学の研修が主目的で、来年三月修了まで研さんを積むことになる。

母国で、マナーの良い日本人と接したことが来日の動機とのこと。△△ビルが好きで、卓球やサッカーを趣味としている好青年で、今後、空手道に入門したいと張り切っている。

さまがわり・アラカルト

公開講演開設

著名講師を招いて

公開講演は、当教育センターで行う研修講座の中から、その講座の受講者以外の教育関係者や一般社会人に、講演のみを聴講することを認め、優れた学識に直接触れる機会を提供することを目的に開設したものです。

本年度の公開講演は、先にお知らせした計画のとおり実施しています。

第一回は、五月二十六日、国立教育研究所教育図書館長、芦葉浪久氏が、「コンピュータの学校教育利用に関する諸問題」という演題で、講演しました。

コンピュータの利用形態についての細かな分析と具体的ななすめ方について、問題点を含めて解説し、さらに、CAIという学習形態をとった場合に、ソフト開発や指導力を身につけるためにはどうするのかという教育現場の最大の課題にも触れて、将来の展望を示唆されました。二十三名の一般参加者を含めた受講者全員が講師の豊かな見識と高水準の講演内容に魅了された様子でした。

第二回以降も、それぞれの専門分野で著名な講師を招き、開催しています。

聴講希望者は、講演の一週間前までに「聴講申込書」を提出してください。

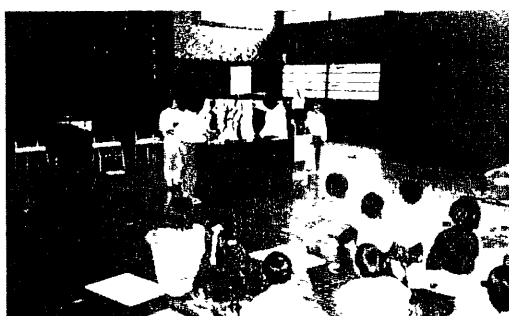
教育相談

移動講座

本年度から当教育センターの新規事業の一つとして、各教育事務所の御協力を得て、教育相談の移動講座が開設されました。

これは、今まで当教育センターのみを会場として行われていた研修講座の一部を地域で開催することによって、先生方が受講しやすいようにするとともに、地域に密着した問題にも積極的に取り組むことを目的としています。

本年度は、



従来小・中・高の校種別に実施していた教育相談初級の講座を、小中合同の移動講座とし、県内三か所で行い、先日その前期

を終了しました。その結果、昨年を九十三名も上回る受講者数となりました。内容的には前期は理論中心でしたが、後期は問題行動への具体的かわり方を中心に講義演習を予定しています。今後、先生方の御要望をもとに講座の改善を図ります。ますます充実したものになりたいと思います。

収集と貸し出し

ソフトウエアの収集・提供について

情報処理教育研修部では優れた教育用CAI・CMIソフトウエアの共同利用計画を目指し、昨年度からその研究開発に着手してきましたが、本年度は、県内各学校で開発したソフトウエアの発掘にも力を入れ、優れたソフトウエアの収集事業が着々と進んでいます。

収集したソフトウエアは秋田県教育センターに登録しておき、それらソフトウエアの一覧表及びマニュアル等を整備し、本年度中にはその一部を共同利用ができるようにしたいと考えています。

六十三年度からは本格的に利用していただくため、電話回線を使って学校に直接提供できるよう計画しています。

初任者

研修講座

講座内容は、既存の新採研の研修内容に教育相談に関する講座や新設の講座を加えたものとなっています。当教育センターで行われる講座は、小学校が10講座、中学校が11講座で、小中いずれも期間は18日間です。高校は、11講座、特殊学校は9講座で期間は、それぞれ20日間となっています。

声・声・声



複式学級新担任研修講座を受講して

大館市立雪沢小学校

浪岡 征子

複式二・三年生の子どもたちを
目の前にして戸惑う事の多い毎
日だけに、講義、学校参観共に
参考になりました。特に実践例
に基づいての講義は、すぐ現場
に取り入れる事ができるように
思います。国語、算数の外、社
会、理科についても取り入れて
ほしいと思いました。学校参観
では、同じ悩みを持ちながらも

一生懸命授業をなさっている先
生たちや子どもたちを見て何か
ホッとしました。また、センタ
ーに宿泊して夜遅くまで複式に
ついての悩みを気軽に話し合え
た事も、講座にはない良い情報
交換の場になったと思っていま
す。

九十九%の努力

—小学校学年主任
研修講座—

鹿角市立花輪小学校

青山 千恵子

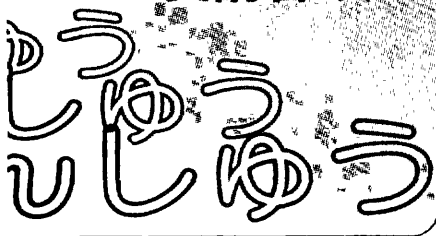
一年の担任ということもあつ
て、子どもたちのことを気にし
ながら参加した講座でしたが、
身近な課題と、わかりやすく内
容の濃い講義で、メモを取るの
に忙しい二日間でした。

その上、「協議」・「演習」

においては、参加された先生方
と気軽に話し合いができ、自分
を見直すよい機会でもありまし
た。

これからも、講義
にもあつたように、
子どもたちのよさを
見つけ出し、ほめる
ことの努力を九十九
%実行したいと思っ
ます。
学校に帰って、「先

受講者の声



ごせそうです。

情報処理教育 指導法研修講座を受講して

平鹿高等学校

渡部 昌 幸

今、何をどのように、どんな
教材を用いて指導すればよいの
かという疑問や不安が、今回の
講演や発表によって解消されつ
つあります。しかし、実際に有
効な指導ができるまでには、相
当の勉強が必要にな
りそうです。

ワープロ研修講座を 受講して

一ツ井高等学校

吉田 ツヤ子

機器に対して敬遠
しがちであったが、

生がいなく
てさびしか
った。」との
声に気をよ
くしている
自分が滑稽
ですが、す
ばらしい先
生たちの輪
の中で今日
も楽しく過

今回思い切って参加してみた。
一人一台を使つてのワープロ
研修中は、つい夢中になつて休
憩タイムも忘れるほどでした。
「習うより慣れろ」、これが受
講後の心境であり、自信が湧い
てきました。

聴覚・言語障害教育 新担任研修講座を受講して

本荘市立鶴舞小学校

斎藤 昭子

「ことばの教室」に着任して
二か月。指導にもいよいよ本腰
を入れなくては……という時期
のこの研修は、私にとつてとて
も有意義でした。講師の先生方
のお話も、現場で実際に接して
いる子ども達の障害と照らし合わ
せながら伺うことができたので、
とてもわかりやすく感じました。
ただ、と
ても内容
豊富なた
め、時間
の関係で
省略され
たところ
もあり非
常に残念
でした。





小・中学校学校
図書館 研修講座

期日 8月25日

情報化社会に対応し、学校図書館の在り方を見直す目的で、

・講話 「本と国語教育」

(講師 秋田経済法科大学教授 井上隆明 先生)

・実践発表と協議

「読書習慣を身につけさせるには」「学習を支える図書館にするには」(部会別)

などの内容を予定しています。

希望講座で、追加の申込みを受け付けています。

中・技術・家庭講座



講座の紹介

小学校理科
経営研修講座

期日 8月13・14日

小学校理科経営研修講座は、理科主任

及びそれに準ずる教

員を対象に、県内を

三地区に分けて年次

ごとに各地区に移動

して行っています。

理科室の安全管理、理科主任

の役割、理科の指導法等につ

てそれぞれの地域課題を取りあ

げ、一人の研究実践から地域ぐ

るみの研究へと輪を広げること

をねらっています。

地域性を生かすことができ、

先生方の出張が容易で参加しや

すいと好評を得ています。

検査法 研修講座

期日 9月10・11日

小・中学校教諭、特殊教育諸

学校教諭を対象に、いろいろな

個別検査法を熟知してもらおう講

座です。

今年度は、知能検査としての

WISC-Rとグッドイナフの

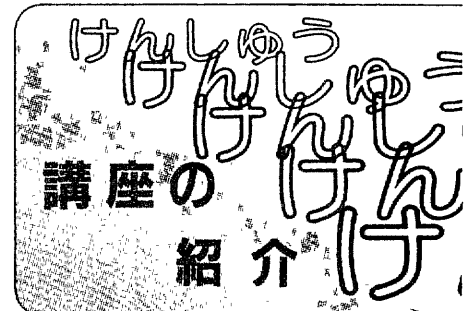
ほか、いろいろな言語発達検査

法も行います。

これらは、学習指導、および

生徒指導の際に、児童・生徒理

解の一方法として、学校現場の



教育に還元されること
と思えます。

CAI 基礎 研修講座

期日 9月24・25日(小)

9月29・30日(中)

「パソコン教材が、

だれにでも作れる」、

これがCAI基礎研

修講座です。

パソコンを初めて操作する人

でも、教材開発支援ソフトを使

用しますので教材作成が容易で

す。小・中学校別に行います。

また、情報通信技術研修講座

は、パソコンを電話回線と結ぶ

知識とモデムを使った情報通信

技術について研修し、パソコン

通信によるソフトの共同利用を

めざしています。

パソコン初級講座



希望講座へのご希望

— 追加申込みの案内 —

次の講座は、定員までに余裕
があります。

申込みについては、「研修講

座案内」の2ページの手続方法

をご覧ください。

・寄宿舎教育

7月28日～7月29日

・小・中学校学校図書館

8月25日

・小学校教科教育(国社算)

9月10日～9月11日

・小学校CAI基礎

9月24日～9月25日

・小・中学校毛筆書写実技

63/1月12日～1月13日

・中学校英語教育

9月2日～9月3日

・中学校CAI基礎

9月29日～9月30日

・中学校国語科教育

9月30日～10月1日

・高等学校国語科教育

10月1日～10月2日

・高等学校社会科教育

10月1日～10月2日

・高等学校英語教育

10月1日～10月2日

・高等学校情報処理(農業)

11月24日～11月25日

昭和六十一年度 秋田県教育研究発表会開催要項

昨年に引き続き、県教育委員会では、次のように教育研究発表会を開催します。

教育関係職員の数々の参加を希望します。

趣旨 県内の幼稚園、小・中・高等学校、特殊教育諸学校及び教育研究機関における教育研究の交流と研究成果を発表する機会を提供し、本県教育の振興に資する。

主催 秋田県教育委員会
期日 昭和63年2月16日(火)
17日(水)

会場 秋田県生涯教育センター
秋田県児童会館

参加者 県内幼稚園、小・中・高等学校、特殊教育諸学校教員及び教育関係機関職員

研究発表

- (1) 発表分野
① 学校運営 ② 教科指導 ③ 教科外領域指導 ④ 情報処理教育(教育機器を含む) ⑤ 特殊教育 ⑥ 幼児教育 以上六分野の分科会をもつ。
- (2) 発表者
○ 県内の幼稚園、小・中・高等学校及び特殊教育諸学校教員で発表を希望する者
○ 県教育研究奨励賞応募者

日程概要

- ◎ 16日(火) 式発表分科会
午前 開全体発表分科会
午後 全分野別分科会
- ◎ 17日(水) 別分科会
午前 分野別分科会
午後 教育研究奨励賞記念講演会

なお、二日目(午後)は、中央から講師を招き、記念講演を行います。

参加申込み 参加申込み方法、発表者、発表主題の詳細については、十一月下旬に御案内します。

・発表申込みの〆切は62年9月30日(水)、詳細は、県教育センター(☎0188-3213594)にお問合せください。

・各分野八、九名程度、合計五十名程度の発表を予定しています。

プロジェクトチームによる 三つの調査研究

当教育センターの調査研究は、社会の動向と教育改善の方向を見定めながら当面する教育上の課題や実践上の諸問題をとり上げて研究し、教育現場の参考に供しなくてはならないと念じている。

各部の研究は、これまでの研究経過をふまえ、今日的課題として重視されている具体的課題を深化、発展させていくようにしているが、特に重点とする事項については、プロジェクトチームを組み、全所員の協力のもとに調査研究を推進している。

本年度は、「変化する社会に対応出来る人間性豊かな児童・生徒の育成」を全体主題としておさえ、次の三つの研究主題について、プロジェクトチームを組んで研究を進めている。

第1プロジェクト

「個人差に応じる学習指導の進め方」(三か年計画の三年次)

昨年度は、個人差に応じる学習指導についての理論と指導法について研究を進め、中学校

における個人差に応じた学習指導の進め方―理論編―を刊行。本年度は、中学校における個人差に応じた学習指導について事例を通して研究し、研究成果を「事例集」として刊行予定。

第2プロジェクト

「パーソナリティの変容を促す教育相談の在り方」

本年度は、発達課題とパーソナリティについての研究を進め「子どもへのかかわりを求めて」―総集編―をまとめる予定。

また、学校生活と教育相談的にかかわりについて担任教師と児童・生徒の意識と実態について究明したい考えである。

第3プロジェクト

「自ら学びとる力を育成するための調査研究」

本年度は、自ら学びとる力についての県内教員の意識調査を行い、背景や意識の方向を探っていく計画である。

以上の研究成果は、今後の教育実践の改善に資するよう、各教育機関に提供する予定である。

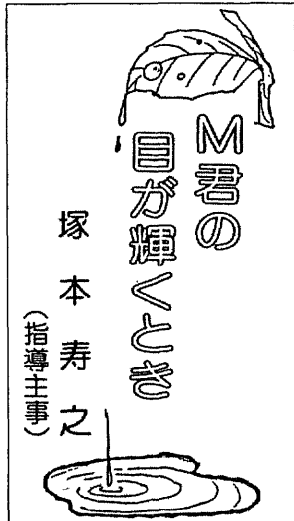
相談室日記

M君は、理髪店へ行つて来たばかりのいがぐり頭をなでながら、お父さんと一緒に入って来ました。

待っている間、足こぎの自転車を運転するのが大好きです。今日もその車を目ざとく見つけて、ブレイルームと廊下をスピードをつけて走り回っています。ハンドルさばきがとても上手で、めったに物にはぶつかりません。バックの車庫入れも一回で成功させて、満足そうに頬をゆるませるのです。

M君は、小学校三年生で、特殊学級に入級しています。来所したのは、五歳になる少し前で、その一年後から私の指導児となり、二年八月を経過しております。両親が通所に熱心で、毎週欠かさず来所するので、すでに百五十回近くの指導が重ねられています。

M君は少し発達に遅れがあり、発音異常もあります。カ・サ行音がタ行音になっており、耳をよくすましてお話を聞いてあげる必要があります。入学時、平仮名読みは七、八字でしたが、担任の先生の根気強い指導もあり、今では全部読めます。しかし、拗音の習得は難しいようです。書ける文字も三十字以上になり、物の名前を書く学習ができるようになりました。よく書けたことをほめると、大



きな目玉をくるくる回して喜びます。けれども、数の勉強に挑戦させると、すぐに大きなあくびをしてみたり、顔を伏せたりしてしまいます。「ぼくの思考力の限界だよ」というサインなのです。

M君が大いに張り切るのは、ミニ体育館でソフトボール打ちをするときです。そのほか、工作をするときにも、目を輝かせます。ピッチャー返しのライナーを打つので、私はボールを投げた瞬間、気をゆるめられません。色紙に糊をつけてボール紙に張るのは、とても上手で感心します。

文字学習と抱き合せに行うのですが、その日の表情を見て疲れを見たり、文字学習への根気の様子をみたりして、時間を決めます。

指導時間が終わると、待っていた父親に文字学習の紙や作品を見せて得意顔です。父親と一緒に帰る後ろ姿を見送りながら、遅くとも少しづつ伸びて来ていることからくる足どりの確かさを感じます。M君の指導については、「根気」をもって反復指導を行い、少しずつ新しい学習で刺激して学習意欲を持続させることが肝要と考えております。発音が少々変であっても、元氣よくおしゃべりできる雰囲気をつくってあげることが大切であると思っています。

電話相談を担当して

松橋長夫 (相談員)

五月雨や怯む心を開かんと新緑映えて心染まりぬ。
太平の山脈遠く眺めつつ健やかあれと電話手に取る。

C 『トウロロ、トウロロ……』
C ハイ、モシモシ、こちら電話相談室の松橋です。個室ですからどうぞお気軽にお話ください。

M あの、家の子が腹痛いと言つて学校へ行かないんです。困つてしまつて……
C ああ、そうですね。

M 学校に話したら、『甘やかすから駄目だ』と言うんです。……いくら怒つても行かないんです……もう一か月半にもなるんです。心配で、心配で……
C ああそうですね、それは心配ですね。新学期始まってみんなが希望に大きく胸弾ませている中に、心のわだかまりに悩み、登校拒否する一部の弱い子を垣間見ながら、自分の悩みを解決できず、また他人にも相談できずに苦しむ方々へのレポートができて、カタルシスが得られればと、繰り返し話し合い、受話機の温もりを感じるこのごろであります。

『ありがとうございました』満足な感謝に胸が熱くなり、クライエントの姿が見える窓辺にも夏風がやって参りました。

